



Smiles for the Public

2022年(令和4)3月期 期末説明資料



TOA株式会社

将来の見通しについて

- 当社が開示する情報の中には将来の見通しに関する事項が含まれている場合がありますが、発表時点での情報に基づく予測であり、経済情勢等の変化によって大きく異なる結果となる場合があります。当社としましては、将来見通しの精度を高めるための努力をするとともに、見通しの変化が生じる場合には適宜開示いたします。
- 当社ホームページは投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断においておこなわれるようお願いいたします。
- 当情報の正確さや掲載内容につきましては細心の注意を払っておりますが、なんらそれらの正確性を保証し、または責任を負うものではありませんのでご了承ください。

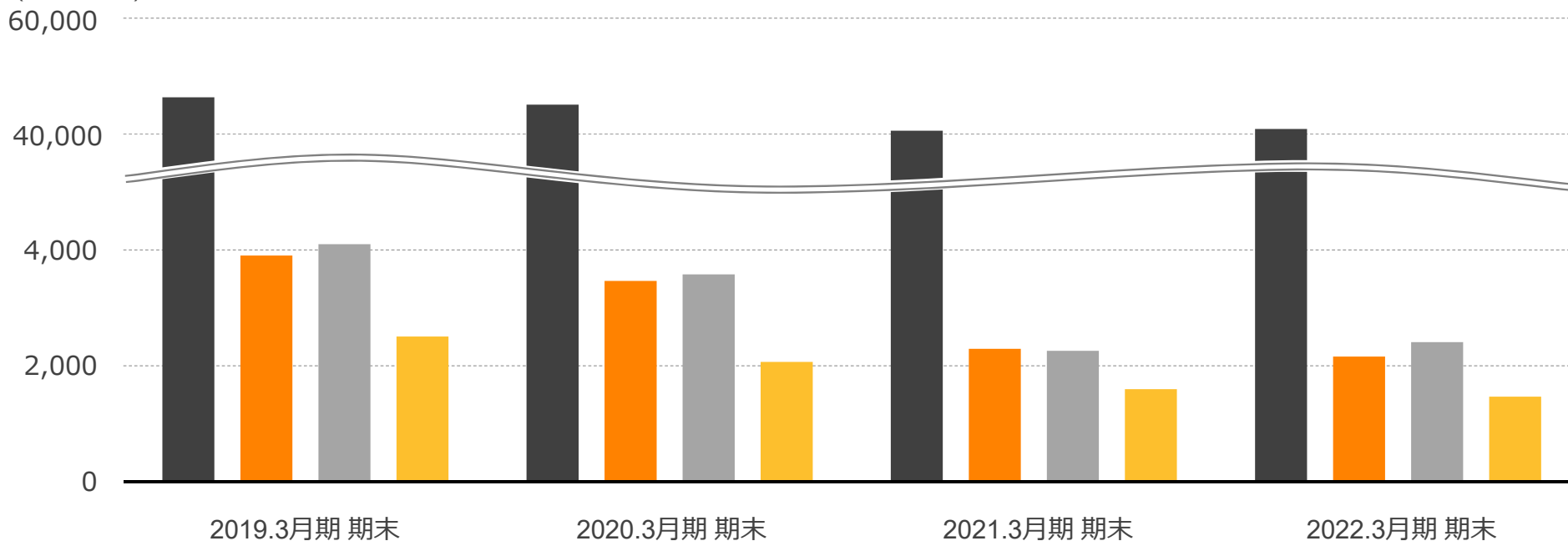
2022年3月期 期末決算業績

概況

- ・新型コロナウイルス感染症のワクチン普及なども影響し、緩やかな回復基調にあるものの、一部地域において変異ウイルスの拡大による経済活動の制限などが断続的に発生。
- ・2022年3月期の業績に関しては、前年同期比で増収減益、期初の業績予想に対しては売上、利益ともに未達。部品価格高騰と輸送費の上昇が主な要因。
- ・国内では、教育市場向けの売上が伸長、空港施設向けに大型案件の納入が進んだものの、需要の谷間にあった減災・防災市場向けの売上が減少、部品入手難により販売機会を損失。
- ・海外では、一部で納期遅延の影響などを受けたものの、各セグメントにおいて大型案件の納入が進んだほか、為替影響もあり、売上高は増加。
- ・引き続き「つながるビジネス」を加速させ、お客さまの事業支援の展開を進める。

2022年3月期 期末の業績（連結）

(単位：百万円)

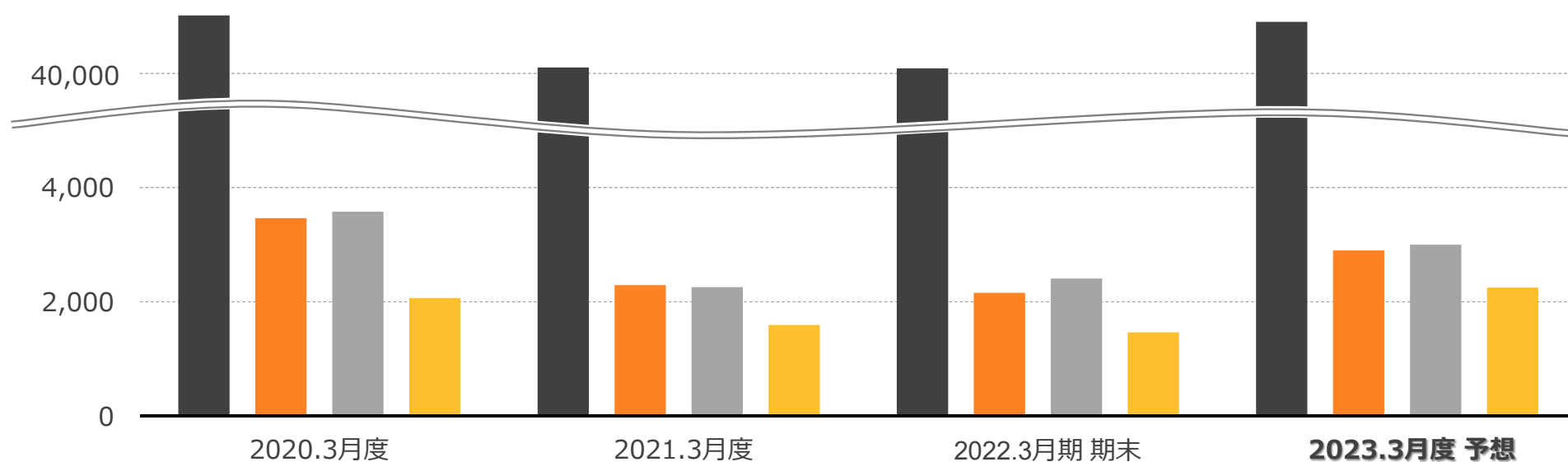


項目	2019.3月期 期末	2020.3月期 期末	2021.3月期 期末	2022.3月期 期末
■売上高	46,338	45,068	40,575	40,864 (0.7%)
■営業利益	3,903	3,465	2,293	2,159(△5.8%)
■経常利益	4,099	3,577	2,558	2,407(△5.9%)
■最終利益	2,504	2,065	1,596	1,466(△8.1%)

(注) 親会社株主に帰属する当期純利益

業績予想（連結）

(単位：百万円) 50,000



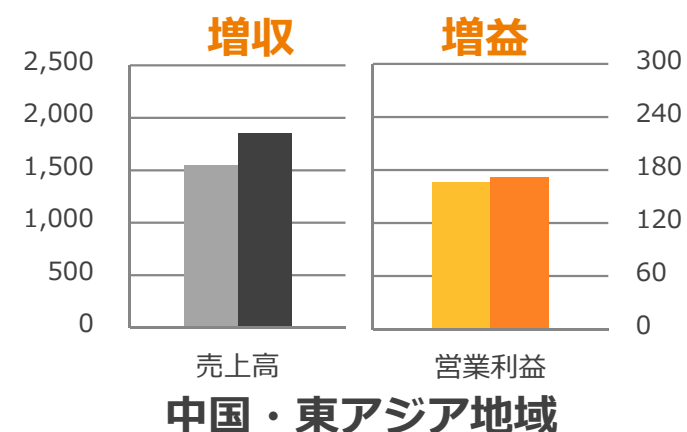
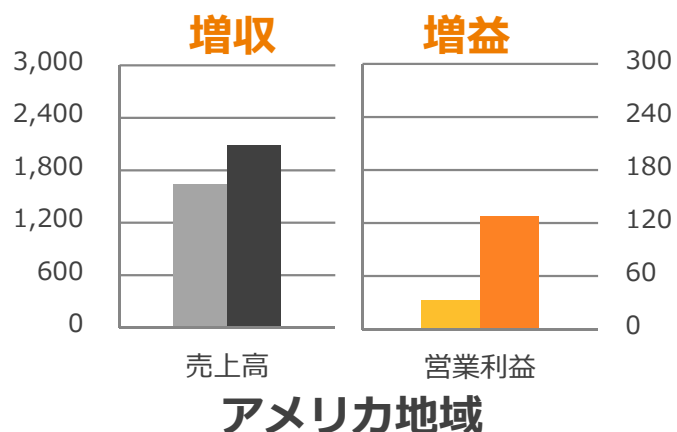
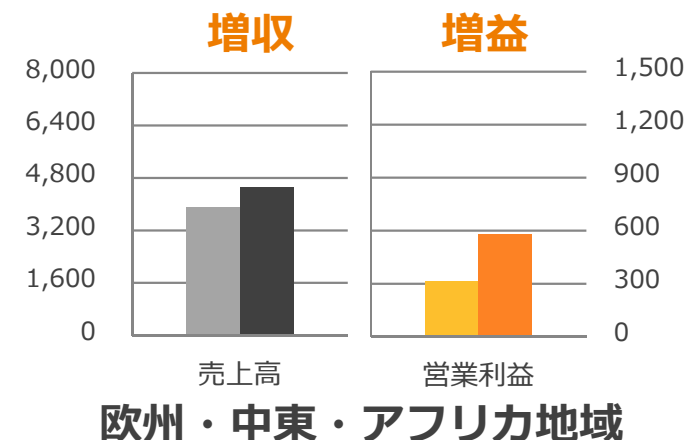
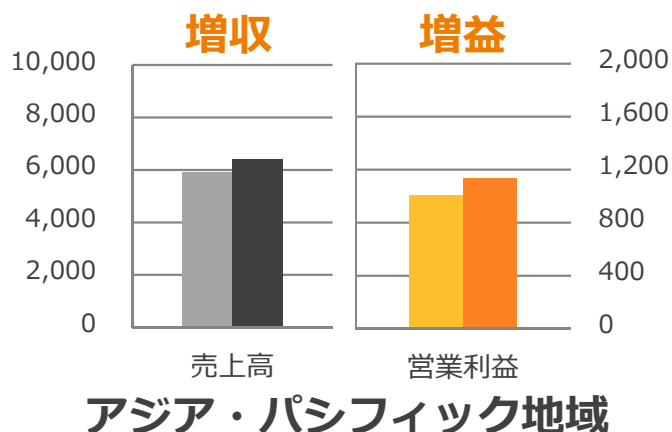
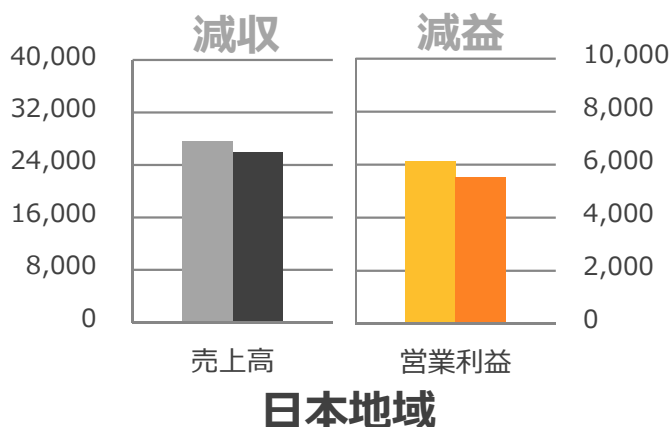
■ 売上高	45,068	40,575	40,864	44,000 (7.7%)
■ 営業利益	3,465	2,293	2,159	2,900 (34.3%)
■ 経常利益	3,577	2,558	2,407	3,000 (24.6%)
■ 最終利益 (注)	2,065	1,596	1,466	2,250 (53.4%)

(注) 親会社株主に帰属する当期純利益

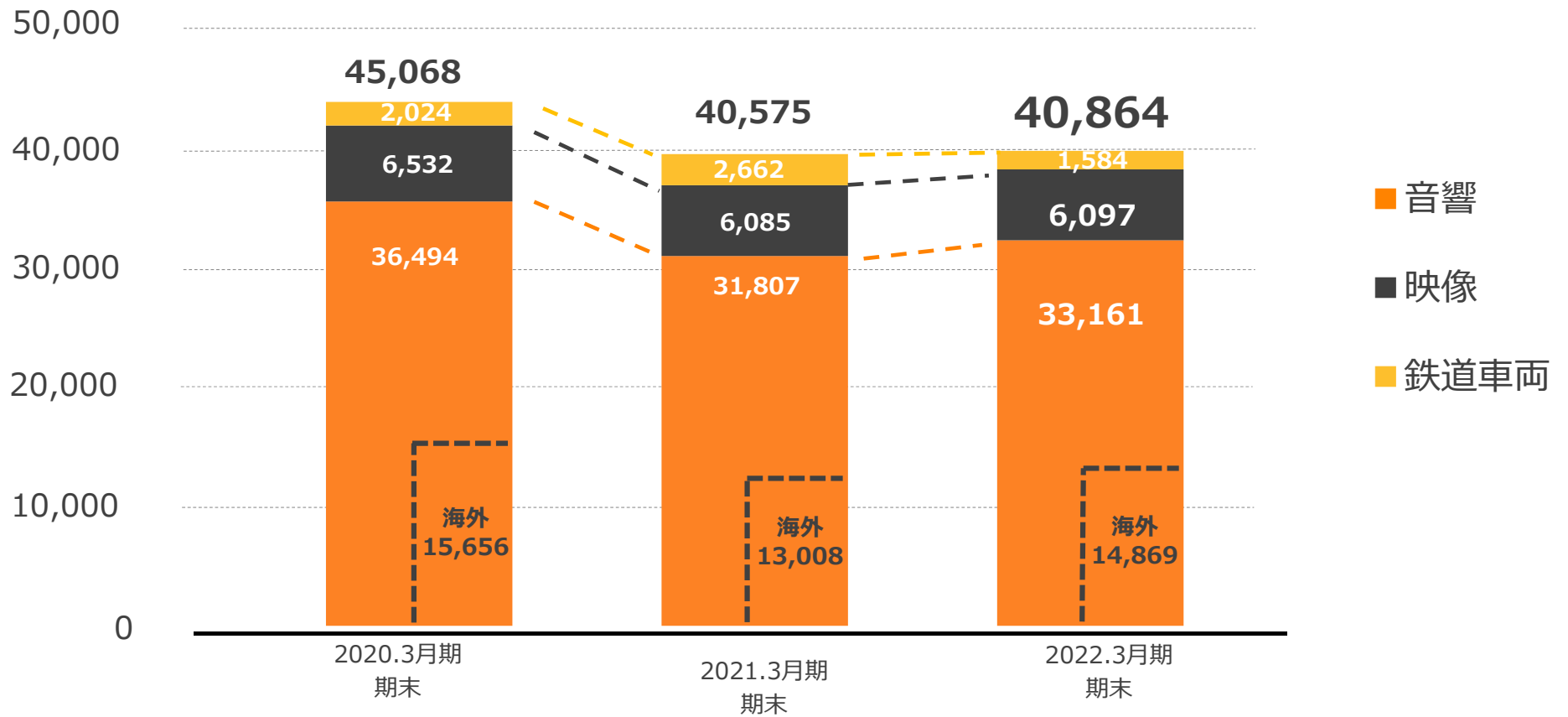
セグメント別実績並びに分野別実績

2022年3月期 期末の業績（セグメント別）

(単位：百万円)



2022年3月期 期末の業績（連結売上高） 製品分野別



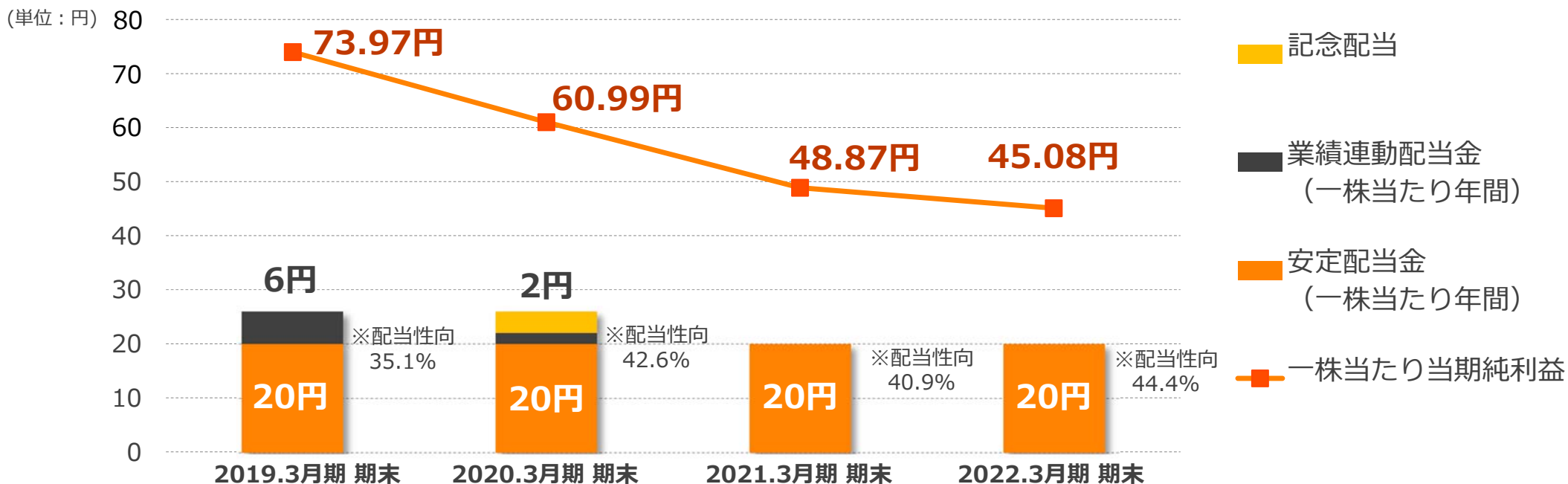
研究開発費・設備投資と減価償却費の推移（連結）

(単位：百万円)	2021.3月期 期末	2022.3月期 期末	増減額(前年比)
研究開発費	2,845	2,807	△ 38
設備投資	1,540	1,122	△ 418
減価償却費	1,445	1,375	△ 70

・ 開発、生産、販売などの各機能を繋ぐデジタル基盤の整備を進める

2022年3月期 予想配当

安定配当20円を維持



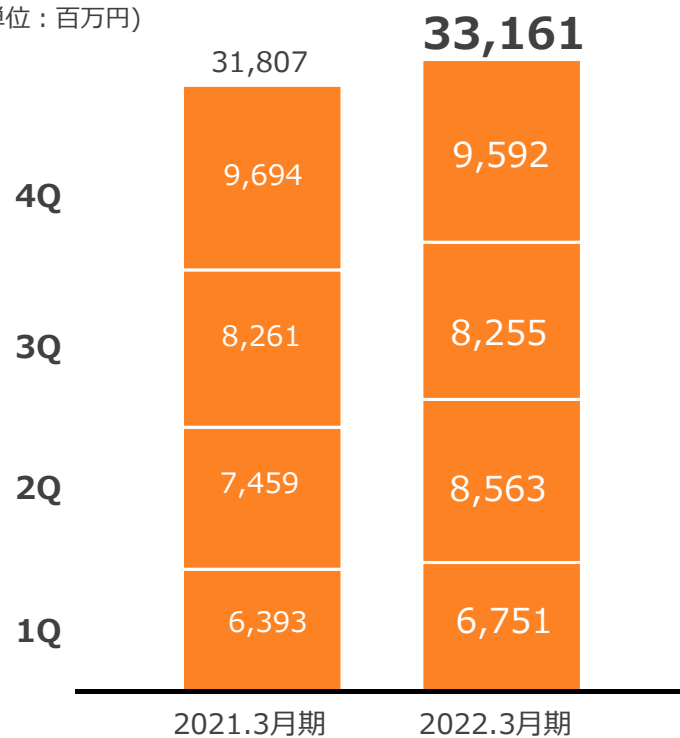
- 年間 20 円（中間配当 10 円、期末配当 10 円）の配当を維持。
- 最低額を20円/株とした業績連動配当（35%を目安）の実施。
- 持続的な成長を可能とする内部留保とのバランスを勘案。
- 2023年3月期の配当方針については、中期経営基本計画にて開示。

補足資料

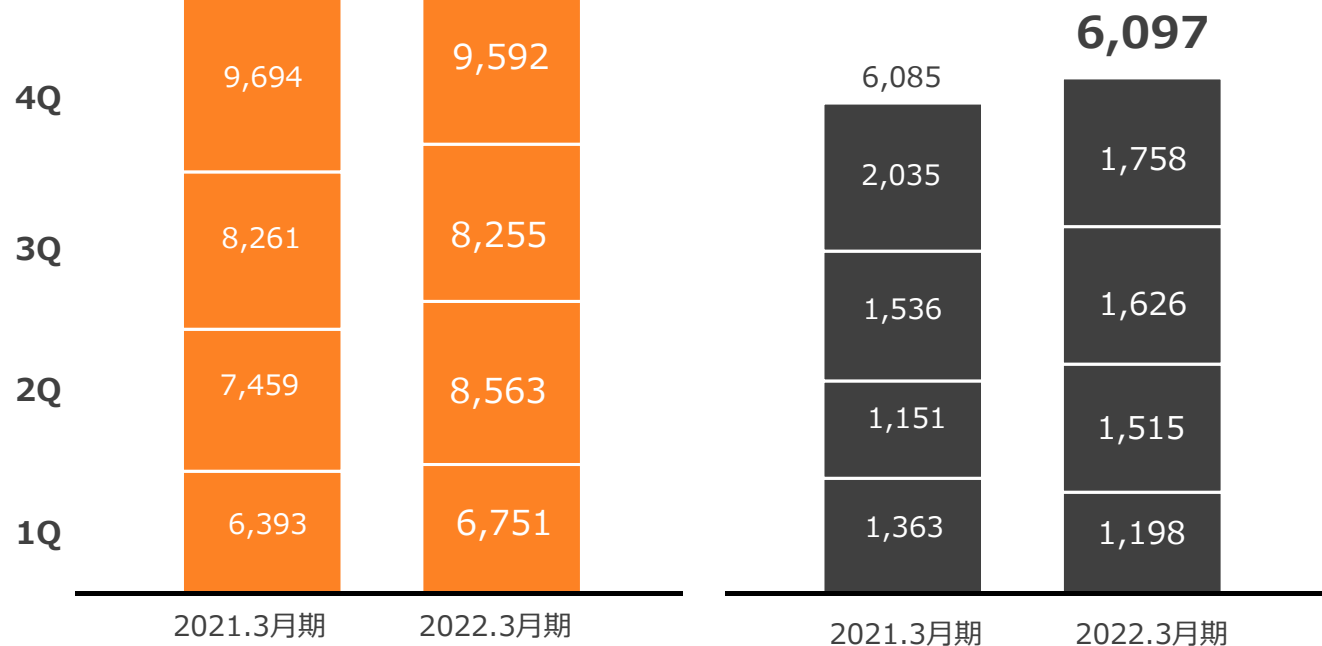
四半期別 売上の推移(分野別)

音響

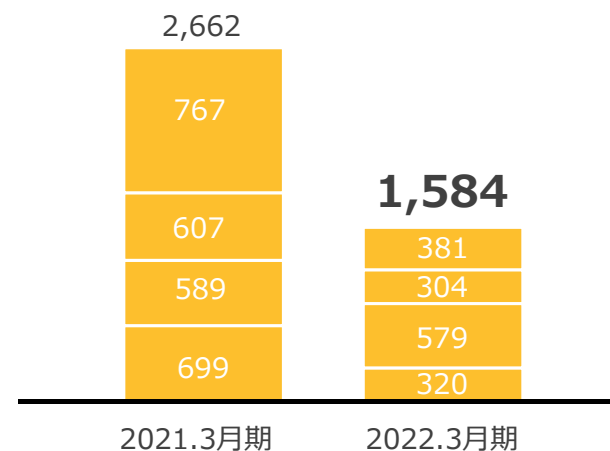
(単位：百万円)










映像



鉄道車両



国内市場別トピックス

市場	2022年3月期 期末	トピックス
教育		放送設備の更新、及びワイヤレスマイクシステムの需要が好調。 今後も、放送・映像設備の更新及び感染症対策などの販売増加が見込める。
工場		大型案件が発生し堅調に推移。 工場火災の発生などにより非常用放送設備の提案活動が加速。今後に期待。
商業施設		ショッピングモールやスーパーなどが引き続き好調。 非常用放送設備、音源放送機器、感染症対策商品などの更新・新規需要が高まる。
オフィスビル		コロナによる需要の減少が今期も続く。
病院		コロナ対応の長期化に伴い、伸び悩む。 感染拡大対策を目的としたリニューアル案件の提案を継続する。
交通インフラ		関西国際空港にてオペレーション機能向上とBCP対策を考慮したソリューションを納入 交通インフラ(空港、鉄道、道路)全般において省人化・効率化の提案が進む。
減災防災		前期の設備導入ピークを迎えた反動減となり、厳しい状況が続く。 補助金の期間延長も受け、今後のリニューアル案件獲得に向けた仕様化に取り組む

※上記は前年比、国内単体実績を参考に記載しております。

共創活動トピックス

産官学と共創し、世の中にある様々なコミュニケーション課題の解決に向けた取り組みをスタート

モビリティ

事例：モビリティ変革コンソーシアム JR東日本

「災害時における駅のあるべき姿検討サブワーキング」の幹事企業を担い、参画企業と共に活動中。災害時、駅・駅周辺にいる被災者の安全確保を目的として放送・サイネージ・スマホ・カメラ等の各種ツールを連携させ、状況把握から情報発信、避難誘導まで行う仕組みの構築を目指している。

街づくり

事例：KOBEスマートシティ推進コンソーシアム

デジタル技術やデータを活用した「市民のQoL向上」「地域課題の解決」を目的に、官民共創で推進。運営委員会企業になると共に、防災・見守り分野で中心企業として活動。



屋外

事例：屋外拡声の実証実験

地形・気象データ、インパルス応答のビッグデータ解析により、屋外拡声を最適化する。試験音の放送と測定を繰り返し、地形・気象データと録音データのビッグデータから相関を導き出す。



教育

事例：「音×学び」共創活動

教室内の音環境を改善することで教育現場の課題を解決していく音の研究・共創活動。適切な音環境で質の高い教育機会を子どもたちに提供することを目指す。



オフィス

事例：会員制コワーキングスペース「point 0 marunouchi」

異業種の企業と合同で様々な空間コンテンツを実証。共創パートナーとのアライアンスを通して、新たなビジネスを企画し、実践・展開、新成長分野の探索・創造を目指す。



